



Segona prova. Part A: prova pràctica

Resolució EDU/17/2020, de 13 de gener, de convocatòria de concurs oposició de per a l'ingrés i accés a la funció pública docent i adquisició de noves especialitats.

Cos: Professors d'escoles oficials d'idiomes

Especialitat: Japonès

SUPÒSIT 1

実践編

この実践編はバルセロナの公立語学学校に基づくものとする。市内には本校以外に五つの公立語学学校があるが、日本語を教えているのは本校のみである。

公立語学学校は独自の校舎を持ち、15の言語を公式に教えている。

- 基本レベルのA 1 から上級レベルのC 2 の英語、カタルーニャ語
- 基本レベルのA 1 から上級レベルC 1 のドイツ語、イタリア語、フランス語
- A 1 からB 1 までの韓国語
- その他の言語については基本レベルのA 1 から中級レベルのB2まで

教室には高性能な視聴覚設備、インターネットに接続したコンピューター、インタラクティブなデジタル黒板が備えられている。

本校の生徒は多様で、多くが大学生や若い社会人ではあるものの、高校生や年長の社会人もかなり多い。生徒の能力や、教育的な背景も様々である。どのグループにおいても、生徒のタイプやその能力は様々である。新しいテクノロジーが使える能力は中・高程度である。

A 2 レベルの三学期、インフォーマルなレジスターを学び始めるところであると仮定する。インフォーマルな形態に関しては、生徒は他の文型においてすでに部分的に見ており、レジスターとしては多くの生徒が映画で聞いたり、漫画で読んだりしたことがある。この段階では、それらの不完全でまとまりのない情報をすべて体系化し、レジスターとして正しく使えるようにさせる。

事前の質問

- 1. 日本語学習におけるレジスターの重要性と、その不適切な使用が口頭および書面によるコミュニケーションをいかに妨げ、するのか、説明せよ。

- 2. フォーマルに対するインフォーマルなレジスターの違いおよび話し言葉、書き言葉のそれぞれにおける使用領域について説明せよ。インフォーマルなレジスターの形態的な問題について説明せよ。

学習状況の設定

- 1. 上記のコンクストで記述されたコースの時点における、2時間15分の授業の進め方について、詳しく記述せよ。その中で行う予定の学習アクティビティ、そして学生の課題、およびすべての生徒がアクティビティに参加するためのストラテジーをどのように作るのかを説明せよ。
- 2. この回において生徒が習得すると思われる学習項目を具体的に述べよ。
- 3. 前述の質問において述べた学習評価をどのように行うのか、具体的に述べよ。

SUPÒSIT 2

実践編

実践編2ではバルセロナの公立語学学校を想定するものとする。市内には五つの公立語学学校があるが、日本語が教えられているのは本校のみである。

本校は独自の校舎を持ち、15の言語が公式に教えられている。

- 基本レベルのA1から上級レベルのC2の英語、カタルーニャ語
- 基本レベルのA1から上級レベルC1のドイツ語、イタリア語、フランス語
- A1からB1までの韓国語
- その他の言語については基本レベルのA1から中級レベルのB2まで

教室には高性能な視聴覚設備、インターネットに接続したコンピューター、インタラクティブなデジタル黒板が備えられている。

本校の生徒は多様で、多くが大学生や若い社会人ではあるものの、高校生や年長の社会人もかなり多い。

担当するグループに定年退職者や多くの高校生がいると仮定する。生徒の能力や教育的な背景、これまでの外国語の学習経験や学習スタイルおよびテンポも様々である。新しいテクノロジーが使える能力は中程度から高程度であるとする。さらに、コースに登録した30名の生徒のうち、一人が注意欠如障害と診断されているとする。

学校にはWiFiが整備されており、すべての教員および学生がバーチャルな学習環境にアクセスできるようになっている。

本校は「サステイナブルな世界で学ぶ」というタイトルの下、エラスムス・プラスのヨーロッパ・プロジェクトに参加している。このプロジェクトへの参加を通して、本校の社会言語および社会文化的な能力と内容を見直し、それらをさらに改善することができた。

この公立語学学校の教育プロジェクトでは、最新のヨーロッパのガイドラインに従って、以下のような目的を具体的に述べている。

- ・ 複文化的なコミュニケーションを促進するための共同作業のコンテキストにおける学習を推奨すること。
- ・ 社会言語学的・社会文化的な能力、および生徒間の異文化間意識の発達に貢献すること。

本校における教員研修のプランには、学習や言語能力の教育、新しいカリキュラムの展開を効果的にする道具としてのテクノロジーの教室での使用などの面における教師の育成が含まれている。

本学年度の三学期初めに、B1のグループの生徒たちは「職業の選択」というタイトルの学習ユニットにおいて、言語的仲介を学ぶ。この課では職業の選択を扱う。例えばある回においては、生徒は専ら様々な職業の利点と欠点、その職業に求められる条件、その職業に就くにあたりふさわしい人物像や能力や性格について話す。

このグループの生徒は様々である（中高生、大学生、社会人、定年退職者）

事前の質問

- 1. 意味の共同構築における言語的仲介の役割と、その他のコミュニケーション様式との相互関係（受容、産出、相互行為）について説明せよ。ヨーロッパ言語共通参照枠が定義する二つのタイプの言語的仲介のうち、カタルーニャの公立語学学校でB1グループを指導するにあたり、言語間仲介と言語内仲介のどちらが適切であると思うか、またそれは何故か。仲介のアクティビティの例を挙げ、あなたの答えを述べよ。
- 2. 言語的仲介は外国語学習のプロセスにおいて、どのような関連性があるか。

学習状況の設定

- 1. 前述のコンテキストで示されたコースの時点における、2時間15分のクラスの一回分をどのように行うか、詳しく記述せよ。行う予定の学習活動や、生徒の課題をどのように設定するか、すべての生徒が活動に参加するためにどのようなストラテジーを取るのか、説明せよ。
- 2. この回において生徒が習得するであろう学習項目を具体的に述べよ。
- 3. 前の問いで述べた学習の評価をどのように行うのか、具体的に述べよ。